

初代工楽松右衛門と工楽家

初代松右衛門(1743～1812)は高砂東宮町に生まれ、若くして兵庫津(神戸市兵庫区)に出て、船乗りとなります。のちに御影屋を名乗り海運業を営みましたが、船の帆布を改良し丈夫で耐久性のある「松右衛門帆」を発明します。



初代工楽松右衛門銅像(高砂神社)

また、幕府や藩の依頼で、箱館(北海道函館市)や択捉島、鞆の津(広島県福山市)など、全国の港を改修しました。文化7年(1810)に高砂へ居を構えました。

2代松右衛門以降も、地元高砂の港を改修し新田を開発するなど、初代の意思を継いで事業を行っています。

工楽家は、近代には砂糖の間屋などを営みながら、棟方志功などの文化人と交流し、居宅は文化サロンの場にもなっていました。



松右衛門帆(高砂南高校蔵)



工楽松右衛門関係地図



江戸時代の高砂絵図

利用案内

工楽松右衛門旧宅

開館日	年中無休 (12月29日～1月3日をのぞく)
公開時間	午前9時から午後6時まで
入館料	無料

駐車場

利用時間	午前9時から午後6時まで
------	--------------

交通アクセス

自家用車	加古川バイパス加古川西ランプから南へ約6キロ
電車	山陽電車高砂駅下車南へ徒歩10分 JR宝殿駅から約5キロ



工楽松右衛門旧宅

〒676-0041 兵庫県高砂市高砂町今津町 532
TEL 079-490-4790 ・ FAX 079-490-4798



工楽松右衛門旧宅



工楽松右衛門旧宅と南堀川の雁木



かつての南堀川(昭和14年以前)

くらくまつえもんきゅうたく
工楽松右衛門旧宅
みなみほりかわいこう
南堀川遺構

工楽松右衛門旧宅とは

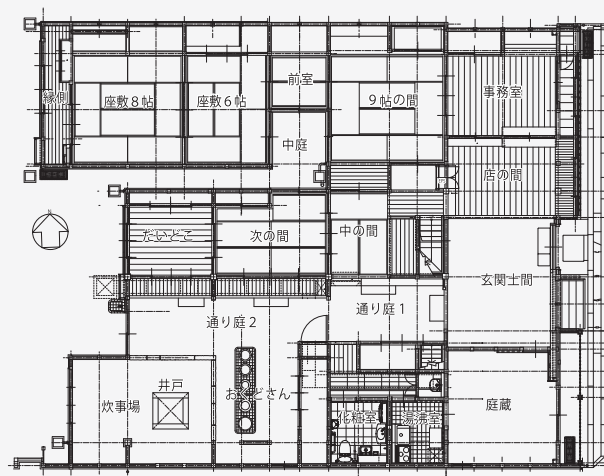
江戸時代に、海運業や港湾改修などをおこなった、工楽松右衛門の居宅です。江戸時代に加古川舟運や海運の港町として繁栄した高砂にあり、南堀川の船着き場の前にあります。

主屋は本瓦葺き木造2階建て、江戸時代後期の建物です。1階は、通り庭に井戸や炊事場があるほか9部屋があり、2階は7部屋あります。

旧宅は、平成28年1月に、史跡として市指定文化財に指定されています。

面積 敷地面積：652㎡ 建築面積：248㎡

年代 江戸時代後期



主屋1階平面図

建物の修理

平成28年1月に高砂市が工楽家より寄付を受けました。

経年による破損が進んでいましたので、可能な限り当初の建築様式に復元しながら、修理工事を、約1年4ヵ月にわたって実施しました。

腰屋根を復元したり、一部洋室のままにしたほか、階段や便所を新設しました。



土間吹抜

高砂・堀川周辺地区整備事業

堀川周辺地区には、江戸時代以降の歴史的町なみが残っています。旧宅保存修理工事や、道路舗装案内板設置を整備する事業は、東播磨県民局や国の補助金を活用し、平成30年3月に竣工しました。



工楽松右衛門旧宅と周辺の町なみ

南堀川遺構・駐車場

旧宅東側の駐車場整備工事に先立ち、発掘調査を実施したところ、江戸時代の南堀川遺構が良好に保存されていることがわかりました。

堀川護岸の石垣や、舟から荷物を揚げ降ろしする雁木という石階段など、船着場の遺構が見つかりました。

駐車場の整備にあたって、南堀川遺構の一部を公開展示しています。

駐車場は車14台が駐車可能です。



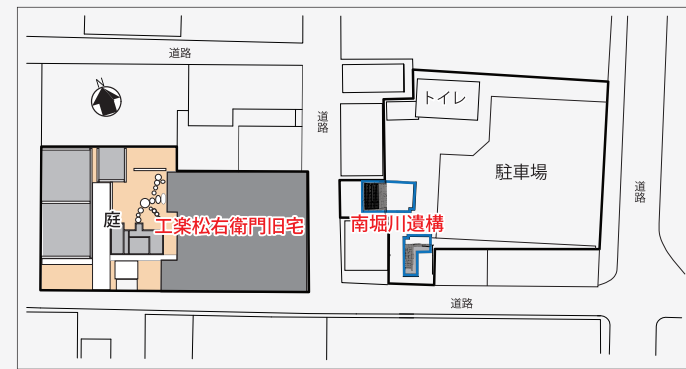
石敷き遺構と雁木（発掘調査当時）

雁木護岸石垣（発掘調査当時）



整備後の駐車場と南堀川跡

石敷き遺構（発掘調査当時）



配置図 工楽松右衛門旧宅と南堀川遺構



東面



1階玄関土間



1階次の間



腰屋根と洋風壁



西面